

会 議 録

会議名	平成26年度 第4回印西市子ども・子育て会議
開催日時	平成27年1月20日（火）午後1時30分から午後3時45分まで
開催場所	印西市役所 会議棟 204会議室
出席委員	西村 信会長、梅元 妙子委員、古賀 一人委員、岩井 基委員、小谷 博子委員、 小島 喜美代委員、前田 陽子委員、服部 光子委員 計8名
欠席委員	古賀 知世委員、賀川 久臣治委員、佐藤 美智代委員 計3名
出席職員等	[事務局] 保育課 伊藤 敏一、杉森 俊彦、泉田 隆之、黒田 学、小森谷 幸一 [関係課] 子育て支援課 田久保 正樹、斉藤 直美 学務課 井上 愛一郎、寺島 光浩、海老原 裕之 [コンサル] 株式会社 まち研 研究員 浜田 守、本間 洋美
傍聴者	2名
会議次第 議 題	1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 協 議 等 （1）保育施設の利用調整等について 【資料1】 （2）私立幼稚園の保育料について 【資料2】 （3）公立幼稚園の保育料について 【資料3】 （4）幼稚園及び保育園の定員設定について 【資料4】 （5）そ の 他 4. そ の 他 5. 閉 会
配布資料	・平成26年度 第4回印西市子ども・子育て会議 会議次第 ・【資料1】H27. 4月以降 保育の利用調整基準表（案） ・【資料2】子ども・子育て支援新制度における私立幼稚園保育料について ・【資料3】公立幼稚園の保育料等について ・【資料4】市内の幼稚園・保育園の予定定員

1 開 会

2 会長あいさつ

西村会長からのあいさつ

3 協議等

(1) 保育施設の利用調整等について

○事務局より説明

- ・保育認定後、保育の必要性の度合いを点数化し、必要性の高い児童から利用を承諾することになるため、「保育の利用調整基準表（案）」について説明した。

○質疑

【小谷委員】基本指数の中で、居宅外労働と居宅内労働の指数が同一なのは、公平性がない。居宅外労働は通勤時間も必要なので、就労時間だけでなく通勤時間も含めて指数を考えるべきではないか。

【事務局】通勤時間は変動することもあるので、労働時間で判断するのが1つの基準となる。通勤時間の取り扱いについてどのように考慮するか、保育課内で検討を進めたい。場合によっては、検討資料を後日配布させていただくこともありうる。

【前田委員】私も、依然、通勤に往復3時間かかっていたことがある。指数の問題もあるが、もっと重要なのは、通勤に最短で行ける保育園に入れるようにしてほしいということ。通勤の関係で、その保育園でなければダメという人もいる。企業の保育施設を利用すればよいということも言われるが、子どもを連れて朝の通勤電車には乗れない。ぜひ希望している園に入れるようにしてほしい。

【小谷委員】市は、女性をどのように支援していくつもりなのか。

【事務局】保育ニーズは伸びており、対応できるよう努めている。通勤時間の配慮の問題は難しい課題であるので、短期間のうちには明確な基準は設定しにくいと思うが、検討していきたい。

【梅元委員】月160時間以上働いている人はかなり多い。本来の就労時間は1日8時間だと思うが、実際の労働時間はそれに収まらないことも多い。160時間以上の枠（指数の段階）があったほうがいいのか。また、学童クラブは、月曜～金曜の利用、月曜～土曜の利用で利用料金が異なる。保育園についてはそういう対処がないので、もっと考慮すべきではないか。

【前田委員】居宅内労働は、居宅外労働より指数を1点ずつ下げるなどしてはどうか。

【事務局】この場での決定は難しいので、今後の検討事項としていきたい。

【西村会長】現時点ではこの内容で進めるが、今後事務局で十分検討していただくということでどうか。

【前田委員】お尋ねしたいが、2人親が月160時間以上の就労であれば、11点×2人で22点になる。1人親についてはどうなるのか？

【事務局】調整指数の備考欄にあるが、ひとり親であれば基本指数に11点を加えたものが基本指数となる。

【岩井委員】調整指数の7と8の区分について、少しご説明いただきたい。

【事務局】兄弟の利用ということでは同じだが、7では、兄弟が同時に保育園入所を申し込んだ場合、8では、兄弟がすでに利用している保育園へ他の兄弟が転園を希望した場合、となっている。

【事務局】いただいたいろいろなご意見を来年度の検討課題としていきたい。

○協議結果

一同了承。

(2) 私立幼稚園の保育料について

○事務局より説明

- ・国や県、県内市町村の今後の動向を踏まえながら、3月までに決定する予定である旨を説明。

○質疑

【西村会長】私立幼稚園は、施設型となると保育料を市が決めることになる。傾向として9割の私立幼稚園が4月から施設型にならないとしている。決められた収入で園をやっているのか、ということを考えている。

【事務局】印西市内の私立幼稚園は、4月に施設型になる幼稚園はない状況。現時点では、茨城県内の認定こども園に通う印西市の児童が1名おり、その園児は、印西市が定めた私立幼稚園の保育料が適用されることになる。

【古賀一人委員】私立幼稚園と公立幼稚園の保育料は同一であるべき。その理由の1つは、この制度の財源が消費税という同一財源からなるものであるからである。もう1つは、認可保育園は収入に応じた保育料が設定されており、私立と公立の区別はない。大前提として同じ制度の中で、1号～3号という認定を受けて利用するのであるので、1号認定であれば、私立と公立は同一であるべき。公立幼稚園も同じ制度の中の1つの幼稚園として、保育料の設定をしてほしい。

【事務局】これまで、私立幼稚園は独自で保育料を設定し、独自の教育であったが、今後新制度になると私立幼稚園の保育料を一律で市の規則で決めることになる。国が基準額を示しているが、基準額より安い保育料を設定した場合の差額は、市が負担する仕組みになっている。保育料の設定については、平均をとるのが妥当ではないかと考えているところである。

公立幼稚園は4月から施設型になる。公立の保育料について、国は、私立と同一とは言っていない。応能負担にはなる。

【西村会長】新制度になったら、幼稚園が動かないといけない。ただ、保育料が出てこないのが新制度に移れない。新しい制度では、一体化していくことがスジだと思う。印西市内の幼稚園協会の集まりをやっているの、そこで意見をまとめて、今後、市の方に行くこともあると思う。

【事務局】幼稚園では、保護者の同意を得て上乗せ徴収をすることも可能ではあるが、独自の保育料というのはできなくなる。

【梅元委員】幼稚園の保育料の仕組みはどうなっているのか？

【事務局】現在は、幼稚園の保育料を一度お支払いいただき、後から就園奨励費を交付するシステムになっている。

【西村会長】私の幼稚園も2年後には新制度に入る予定でいる。保育料が明らかになってくれば動きがあると思う。

【古賀一人委員】市内6園は動向を見ている状態。しかし、28年度の入園の準備があるので、今年の4月～6月あたりに、今後の移行について決めることになるのではないかと。

【西村会長】学校法人は、辞めたら国のものになる。寄付したら国の財産。そういう意味では、幼稚園というものは、もう個人のものではないということである。

私立幼稚園の保育料については、次回、また案を示していただくということで、検討していきたい。

○協議結果

次回も継続審議する。

(3) 公立幼稚園の保育料について

○事務局より説明

- ・今後、まずは異なる運営方法の統一化を図り、そのうえで保育料の見直しについて検討を進める。保育料は、当面は現状維持とする旨を説明。

○質疑

【古賀一人委員】当面というのは、どのくらいの期間なのか？

【事務局】資料にもあるように、各園で異なるサービス水準の一定化を早急に行いたいが、バスや給食など、大きな課題もあるので期間を区切れない状況にある。地域事情やこれまでの経緯もあるので、これらの整理をいつまでやるという確約はできない状況である。

【古賀一人委員】公立も私立も保育料は同一であるべきだと思うが。

【事務局】国は、公私を同一には言っていない。これまで公立と私立で、それぞれの役割というものがあった。特に私立は制服や一時預かりなど、公立にはない特色あるサービスを展開してきた。

【西村会長】保育料が一緒になったら、特色あることはできなくなる。さらに新制度では、幼稚園も保育園も同じになるということだと思う。収入面を一体化したものにすれば一緒になる。

【事務局】公立幼稚園のアンケート結果をみると、公立幼稚園を選んだ理由に、「保育料が安いから」という回答が多かった。公私を一緒にするには、まずは公立の運営方法の統一化を図り、次に保育料の見直しと段階的にやっていく必要がある。

【西村会長】本来は同じになるべき。同じように子どもを預かる施設であるので、同じ土俵に立つべきだと思う。

【小谷委員】資料によると、公立のものの幼稚園は、バスや給食、園児数など、私立幼稚園と変わらないのではないと思う。

【事務局】地域事情もあり、公立幼稚園3園の状況は明らかにバラつきがある。

【小谷委員】バスがあるのなら、遠くからもとの幼稚園にいく人もいるのでは。

【梅元委員】3年保育を実施すれば、大森幼稚園に行くニュータウン地域の人にもいるのではないと思う。

【事務局】もとの幼稚園の園児数が多いのは、3年保育を実施しているからと考えている。

【小谷委員】バランスをとるためには、通園区域の設定も検討したほうがいいのではないかと。大森幼稚園の園児数では、もし私立幼稚園なら経営は成り立たないという状況だと思う。

【事務局】現在は通園区域を設定していない。また、大森幼稚園や瀬戸幼稚園で、もとの幼稚園と同じように、3年保育やバス送迎等を実施すると、私立の運営に影響を及ぼす可能性がある。

【小谷委員】大阪市は、金額は一体化するという方針だと聞いている。

【事務局】県内でも、既に応能負担という方向性を出している自治体もある。今後も会議でのご意見をうかがいつつ検討したい。近隣では、平成27年度はこれまでの料金で継続するということが多いようである。

○協議結果

一同了承。

(4) 幼稚園及び保育園の定員設定について

○事務局より説明

- ・認可定員の他に、利用定員を設定する旨について説明。

○質疑

【梅元委員】「ヒューマンアカデミー印西保育園」についてお尋ねしたい。

【事務局】4月から新しい保育園として「ヒューマンアカデミー印西保育園」が開園予定である。その他、しおん保育園分園や山ゆり保育園では、定員増加を予定している。保育園は定員の20%増まで預かることができるが、2年続くと支払われるお金が安くなってしまうというしくみになっており、定員には経営を圧迫しないよう配慮が必要である。

【小谷委員】大森幼稚園は年々園児数が減っているのか？今後の見込みは？

【事務局】大森幼稚園は、平成29年度に保育園と一体化して認定こども園になる予定である。平成27年度はこれまでとほぼ同じ程度の園児数の見込みである。大森幼稚園は、園児数が少ないからというニーズもある。例えば、障がいのあるお子さんの場合、少人数がよいということで入園するケースもある。

【西村会長】印西市は、障がいのあるお子さんへの取り組みは素晴らしい。

○協議結果

一同了承。

(5) その他

○事務局より説明

- ・次回以降、2月中旬、3月に実施予定。次回の議題予定は、保育料とパブリックコメント結果について、最終の3月末の議題予定は、計画の最終案となる。

4 その他

○事務局より連絡事項等

- ・委員報酬について説明。

5 閉 会

平成26年度第4回子ども・子育て会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

平成 年 月 日

子ども・子育て会議委員

西村 信

子ども・子育て会議委員

梅元 妙子